

## イノベーション人材育成推進教員活用事業の取組紹介

イノベーション人材育成推進教員活用事業では、理科授業の質的向上を図るため、STEAM教育の視点を生かした授業や探究的な授業についての授業研究会や実験実技講習会等を行っています。

その中から、イノベーション人材育成推進教員の先生方に参加していただいた第2回理科授業力アップ推進委員会(令和6年9月6日)の様子をご紹介します。

### 大熊町立学び舎ゆめの森(義務教育学校・認定こども園)の視察



〈昆虫標本や模型の展示〉



幼児期のおそび(内発的関心・問いからの没頭)の力を伸ばし、学校の学びも内発的な「探究」へと転換するという特色ある学びを展開していました。

理科室には、昆虫のからだのつくりに興味をもった児童が実際につくった昆虫の模型が展示されていました。

〈6年 月の形と太陽の授業の様子〉



ICTを活用し、月の形の見え方と太陽の位置関係を捉えさせ、月の形の見え方は太陽と月との位置関係によって変わることを理解させていました。

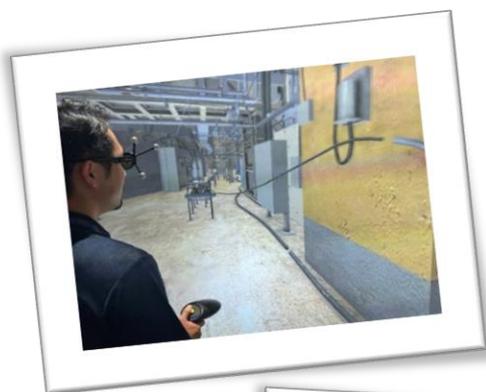
大熊町立学び舎ゆめの森では、個別最適な学びにより、子どもたち一人一人が自らの学びをデザインする学習環境の実現を目指していました。

今回の視察を通して、イノベーション人材育成推進教員の先生方は、「子どもの主体性こそが最大の学びの促進要因である」ということを肌で感じ、自校での授業実践や校内の環境整備等に生かそうとしていました。

# 国立研究開発法人日本原子力研究開発機構 (JAEA) 檜葉遠隔技術開発センター (NARREC) の視察



<バーチャルリアリティ (VR) 体験の様子>

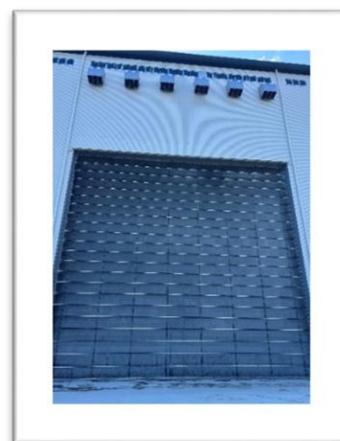


遠隔操作により、福島第一原子力発電所内の格納容器の底に溶け落ちた燃料デブリを取り出す方法について、バーチャルリアリティ (VR) 体験させていただきました。



<試験棟 (幅60m×奥行80m×高さ40m)>

試験棟内では、隔てられた場所での作業を行う機械やロボット等を制御、運転するための技術である遠隔技術操作機器の個別試験などが行われていました。



2011年3月11日の東日本大震災より13年が経過し、現在の小中学生は、震災や原発事故についての記憶や知識がほとんどない世代になっています。

今回の視察を通して、イノベーション人材育成推進教員の先生方は、今後何十年とかかる廃炉に向けた取組の現状を知り、放射線に関する科学的な理解や科学的に思考し、情報を正しく理解する力を児童生徒に育成していく重要性について再認識することができました。

浜通り地域を中心とした本県の子どもたちが、福島イノベーション・コースト構想に希望を抱き、構想の将来を担って世界に羽ばたくエンジニアやトップリーダーとして活躍することを目指して、小中学生、高校生などを含めた地域における教育や人材育成の強化が求められていることを知り、教科等横断的な視点やキャリア教育の視点も意識しながら、子どもたちの資質・能力の育成に努めていきたいと思います。